

#

記入欄

1	計画名称	ひので衛星																					
2	代表者名	勝川行雄 (NAOJのPOC)																					
3	代表者所属	国立天文台																					
4	関連する主な研究者コミュニティ名 (あれば)	太陽研究者連絡会																					
5	現在の計画のステータス	運用段階																					
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	ひので衛星の科学運用を2033年度まで延長する(2033年度までの運用継続はISASにて審査中)																					
7	計画のScience Goal (計画の核心をなす学問的問い)	(a)太陽圏現象を駆動する太陽活動の理解(主にSOLAR-C打ち上げまで)、(b)SOLAR-C科学運用支援(SOLAR-C打ち上げ前から打ち上げ後1年)、(c)太陽長期変動の理解(2033年度まで)																					
8	計画のScientific objectives (計画の研究目的)	(a)内部太陽圏のin situ観測を解釈するため、太陽から探査機間をつなぐ磁場情報と太陽コロナ活動を取得する。 (b)SOLAR-C打ち上げ前に「ひので」と地上望遠鏡や探査機との模擬共同観測を行うことで、SOLAR-C打ち上げ後速やかに成果創出するための準備を整える。打ち上げ後はSOLAR-C紫外線観測と相互較正する。 (c)太陽極域磁場と高温コロナの連続観測によって、太陽磁気活動の長期変動を知る上でユニークな情報を得る。																					
9	計画が実施するScience investigations (何をどこまで明らかにしようとするか)	(a)PSP、Solar Orbiter、「みお」、「あかつき」、「あらせ」、PUNCH等との共同観測 (b)内部太陽圏探査機やALMA、DKIST等の共同観測、「ひので」EISとの相互較正 (c)太陽極域の精密ベクトル磁場と太陽全面のX線高温コロナを連続観測																					
10	計画の実施期間 (既存の計画の場合は過去の期間も含む)	2033年度まで																					
11	計画全体の予算規模 (総額, もしくは年度毎の額)	9千万円/年 (主にISASでの定常経費、S帯受信費)																					
12	上記の中で期待する国立天文台の資金 (総額, もしくは年度毎の額)	650万円/年 (名古屋大学との共同研究費, 科学運用の外部委託, 等)																					
13	国立天文台に期待する役割	運用人材、広報活動とHP維持、名古屋大学との共同研究推進																					
14	資金調達方針 (5種類から数字で選択)	2, 4 (JAXA宇宙研), 5 (海外機関から提供の運用経費)																					
	1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費, 2. 運営費交付金 (既存計画, 新規計画の検討活動・基礎的開発を含む), 3. 新規 大規模学術フロンティア促進事業への提案, 4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学や JAXA 宇宙研)予算, 5. 外部資金あるいは競争的資金																						
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表 (画像を添付)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2005</th> <th>2010</th> <th>2015</th> <th>2020</th> <th>2025</th> <th>2030</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひので</td> <td colspan="6">[黄色の線]</td> </tr> <tr> <td>SOLAR-C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td colspan="2">[緑色の線]</td> </tr> </tbody> </table>		2005	2010	2015	2020	2025	2030	ひので	[黄色の線]						SOLAR-C					[緑色の線]	
	2005	2010	2015	2020	2025	2030																	
ひので	[黄色の線]																						
SOLAR-C					[緑色の線]																		